

同友 やまがた

よい会社をつくろう／よい経営者になろう／よい経営環境をつくろう



山形県中小企業家同友会
月刊同友
やまがた



寒河江支部3月例会グループ討論

第18期経営指針をつくる会がスタート
労使見解をベースとした経営指針の確立で
21世紀型企業をめざそう

第1回東日本大震災復興シンポジウム開催
東日本大震災からの復興へ 持続可能な社会をめざして

山形県中小企業家同友会
2012年度スローガン

理念を
人を
数字を
なる
経営者
う！
い
か
す

労使見解をベースとした経営指針の確立で 21世紀型企業をめざそう

2月23日、第18期経営指針をつくる会が、寒河江市のホテルサンチェリーで始まりました。今期からより主体的に取り組もうと「経営指針作成セミナー」を「経営指針をつくる会」に名称を改めてのスタートです。開講日には、受講生7名と修了生24名が参加し、共に学び合いました。



何のための経営かが問われる時代



冒頭、安藤昌則代表理事は、第一期で経営指針を修了したのが每期修了生として再受講することで会社を良くしてきたと自らの経験を紹介し、「第18期経営指針をつくる会がみんなのターニングポイントになることを祈っています」と、挨拶しました。

続いて、菅原茂秋経営指針委員長は、「何のために経営していくのが問われる時代。今までと経済構造が変わり、人口も減少していく。その中で人を生かす、社員と共に生きる経営をめざしていく。労使のコミュニケーションを豊かにし、何のために経営していくのかという社会的使命を帯びた経営を確立していくことが、ここに集まっているみんなの目的です。労使見解をベースにした経営指針を確立、実践し、ぶれない自分をつくり、21世紀型企業をめざしましょう」と述べました。

日本は縮小の時代

第1講では、中同協専務幹事 松井清充氏より「同友会らしい経営指針の確立、経営理念成文化の進め方」「経営指針は労使見解からの企業づくり」をテーマとした講義がありました。

はじめに松井氏は、何故いま「労使見解」なのかの背景として、「情勢、時代変化が求めている」「東日本大震災で残ったのは理念と人だけだった」「理念から外れると潰れる時代で、心の豊かさに対応する時代」と3点挙げました。

その上で、人口減少による経済の縮小、資源・顧客・企業が減っていること、日本国内のお金の流れが縮小している状況について説明し、「日本は縮小の時代に入っている。まず、立ち位置を明確にして、経済発展しないという覚悟を持つことが必要」と、指摘しました。

原点の本質から考える

松井氏は、展望は目先に追われては見えない。原点の本質から考えてみる必要があるとし、「人間は群れをつくり、働く分担をして他の動物に勝ってきた。働く場をつくってきたから人間が発達した。経済は人の暮らしを守るためにあり、一人でやるより組織としての方が貢献できるということで企業が生まれた。企業は生きる・暮らすを保証するためにある。明治までは小規模企業で、戦前戦後の外貨は、中小繊維業が稼いでいました。その後、鉄鋼・自動車の大企業の時代となった。大企業が弱った時が、中小企業の出番です。戦後のもの・



カネのない時代に中小企業はやってきました。その過程で、労働組合が生まれた」と歴史軸から語りました。

労使見解の精神

総資本対総労働という激しい対立の中で、同友会は労資から労使へ話せばわかる人対人にしました。労使見解はつぶれない企業をどうつくるのかと苦しんだ経営者の血と汗の結晶から生まれたという背景を述べた後、経営者の責任について解説。

さらに「人を生かす」の人は経営者。自分を生かすこと、経営者の覚悟から始まる。

企業が取り組むべきものを明らかにしたのが労使見解の精神です。この労使見解から経営指針・共に育つ社員教育・共同求人活動が始まった。労資から労使へ。違いを認め合う。違うからこそ認め合うことで話し合いができた。みんな違うから一人ひとり出来る方法を考えるのが経営者。そこで、経営理念が共有できる。どうしたら出来るかを考えるのが同友会です」と語りました。

経営指針づくり

全社一丸体制は労使見解の全面実践からなる。人を採用し、育てていく過程が経営指針の中には必要です。全社一丸体制とは「社員の幸せ・企業の発展・社会貢献」を経営理念で追求していくことです。同友会の経営指針の根底には労使見解があり、自分の所だけではなく他の人もよくなるというのが、同友会の特長です。

経営指針づくりのポイントは、自分を見つめる、何の為に経営しているのか？誰の為に経営しているのか？に気づくことで、理念づくりのキーワードとして、科学性・社会性・人間性を挙げました。

そして、強みと弱みをしっかりと分析し、本来持っている

力の強みを見つけ、生かし、市場をつくること、顧客の困りごとに応え、価格決定権をもつこと、連帯・連携でみんなの強みを合わせて市場をつくることを全国実践事例から紹介。

さらに、21世紀型の企業づくり(自立的で質の高い企業)をめざすためには、顧客に応じていく。そのカギとして、相手にとってのオンリー1を一つ作り、そこから広げていく、時代のキーワードである少子化・高齢化に本業で応えていく、地域づくりに本音で応えていくことを挙げました。

今、求められる企業づくり

最後に松井氏は、「日本の問題解決には理念を持った中小企業を地域に多くつくること。理念を持った中小企業は理念に納得した社員がその気になって育っている、そして、人をつくる中小企業が地域をつくっている」と語り、歴史から学ぶ点として、日本で唯一経済成長が止まった享保時代の頃の文化と各藩で名産品づくりや近江商人の三方よし(売り手よし・買い手よし・世間よし)の考え方を挙げ、「そのもとになったのは商人であり教育です。理念を理解した社員がお客さんと接触し、提案できる心の豊かさの時代に適応する企業づくりをしよう」と提起しました。

そして、「仕事と雇用をつくる企業が日本の再生を担う。企業が存在するだけで今、価値がある。地域で仕事をつくる、地域で社員が暮らしやすい働く場をつくるのが大切。自分のところは何屋なのか？お客さんは誰なのか？を考える。そして、心の壁(常識)をこわしてください」と、述べました。

その後、受講生は、2回のグループ討論を行い、一晩かけて経営理念を作成。翌日には、その出来たばかりの理念を発表し、検討を行いました。

これから8月の発表会に向けて、受講生は自分と会社と向き合いながら未来のつまった経営指針書の作成をめざしていきます。



東日本大震災からの復興へ 持続可能な社会をめざして

東日本大震災から間もなく2年になる3月6日、中同協主催の「第1回東日本大震災復興シンポジウム」が、福島市のホテル福島グリーンパレスを会場に開かれました。各地同友会と中同協から232名が参加、山形からも9名が参加しました。

参加者の皆さまより届いた感想を紹介いたします。



サンシステム開発(株) 中村友祐

「原発・エネルギー問題について、中小企業家としてどう考えるか」というテーマについて深く考えさせられました。山形に住み、経営していると直接的な影響をあまり感じられず「被災地は大変だ」「福島原発はどうなるのだろう」と頭をかすめますがどこか蚊帳の外のようなところもあったのではないかと反省するばかりです。そしてもっといろんな問題や課題がある、という事を知らなければならぬと感じました。

原発・エネルギー問題は今後避けて通れない大きな課題です。総論として原発は反対、という事は参加者のほとんどが感じたところだったと思います。しかし、各論ではどうでしょうか？電力料金の値上げ、電力不足にどのような対応するのか？考えればきりがありません。

地域内で供給できる省電力発電、代替エネルギー、再生エネルギー、そして既存エネルギーインフラとの共存が中小企業家として今後の大きな課題となると感じました。小さくとも自社で出来る事があるはず、結果的に仕事づくりにも繋がるのだと強く思います。

「大震災の教訓として何を学び何を生かしていくか(企業として、同友会として)」

まさに労使見解の学びと実践が発揮されたのだと感じ

ました。生きる、そして経営者の本気の覚悟、地域を思う強い心と志を被災地の経営者から感じました。それは圧倒されたという事にもいえませぬ。「このままでは山形の企業は飲み込まれる」と危機感を覚えました。被災地に於いて再生され本業を開始された報告では、自主的社員育てができていないか否かが大きなポイントであると感じました。さて自社はどうか？皆さんの会社ではどうですか？

私たち中小企業は地域なくしては成り立ちません、また自主的社員が育たないと維持発展できません。労使見解の深さ・強さを感じた報告と討論でした。

さて、自主的社員が育たないとよく言われますが同友会会員としてはどうでしょうか？

会員として、事務局として役割、行動も問われたのではないかと感じました。

震災時に地域を支え一時でも経済を支えたのは私たち中小企業家です。大企業は動けなかったのか何も出来ませんでした。

中小企業家として誇りをもち、大きな志で山形から発信していきましょう。

(株)曙印刷 川合勝芳

被災地3県の企業再生に奮闘する経営者の報告は、頭の下がる思いです。企業を守る。社員を守る。地域を守る。



という一心から、経営者として、またリーダーとしての決断と社員の強調や協力は、日頃からしっかりした経営基盤を構築し、理念型経営が活かされていないと、突然の災害や想定外の出来事に立ち向かって行けなくなるだろうと感じた。

理念型経営を学習し、経営体験を交流している同友会の仲間だからこそ、連携し合い、地域での真のリーダーシップをとり、復興にチャレンジしている姿は見習わなければならないと思います。また、あの状況の中であの行動ができたという事は、中小企業家として、また、経営者としての覚悟と経営者としての誇りや志を学びました。

安孫子理事長より「福島の実状を見て、正しく伝えてもらいたい、風化させないでほしい」との挨拶は、福島県の現状を痛感させられました。

被災地から選ばれた3名の経過報告の中で、八木澤商店の河野社長から、被災した最悪の状況下での経営者の判断の重要性である。被災の中で、同友会活動で実践してきたことが、そのまま実践されたことを尊敬する。

次に宮城の八葉水産の清水社長は、6工場全て被災した中で全社員を解雇したが、1年で再開し、更に新会社を設立と、震災は新たな仕事生まれることを学んだ。

最後にスーパーキクチの菊池社長の報告では、当時社長不在の中で、ライフラインが止まった状況で、店舗の商



品を地元の人に配った店長の行動は、経営理念があったからだと話された。個人的な話題では、山形県の新卒内定の女子社員3名を、グループ関係にあるおーばんさんをお願いして雇用して頂いたが、返してくれと言っても返してもらえないと苦笑いで話されていた。

山形同友会 事務局 伊藤由紀子

今回のシンポジウムは、①3・11東日本大震災を風化させず、全国復興を支援する、②被災地の現状を共有し、中小企業や同友会が果たしている役割を教訓化する、③持続可能な社会の発展のために、原発、エネルギー問題と中小企業の活性化について研究することを目的に開催されました。

東日本大震災からの復興と原発・エネルギー問題を切り分けて考えていく必要があると感じました。あれから2年が経過し、復興が遅々として進まない現状を知り、自社の努力だけでは、解決できない現実であること。そのなかで、社員と共に地域再生をめざし踏ん張っている中小企業が同友会の仲間であることを誇りに思います。

しかし、被災地の課題は、日本の未来の縮図です。平和であってこそ経営ができる、同友会理念、同友会運動の役割が大きいと実感します。

原発の問題は、グループ討論で、温度差を感じました。危険とは分かっているが「なくなったら経済がね…」との声があります。講演のなかで「原発はトイレのないマンションをつくるようなもの」と指摘しているように、今の技術では後処理ができないことが明白です。

政治的問題や当事者を福島県だけにすることがないよう、生命の危機と紙一重であることを自覚し、原発をやめるしかないと思います。

山形同友会 事務局 矢作聖子



シンポジウムでは「原発とエネルギー問題」の基調講演、被災地で企業再生に奮闘する三名の経営者の報告とグループ討論から学び合いました。

基調講演では、社会的な面からのお話で放射能という目に見えないものと戦う困難さを改めて感じました。グループの全員が、原発をいずれやめるために風力・太陽光・小水力発電に取り組むべきという考えでした。脱原発とエネルギーについて国家レベルの大きな問題として捉えるのではなく、地域の自然資源を生かしたエネルギー

で自分の地域の問題として考えると、主体的に出来ることが見いだせるといった意見も出されました。グループの岩手大学の先生が福島出身の学生から「将来、私は結婚できるのでしょうか？」と問いかけがあるというお話がありました。この問題を考える上で科学的、社会的、両面からしっかりと情報を精査して考えていく必要があると思いました。

被災地の経営者の報告は、お客様・社員・地域への思いが事業再開の原動力となって、さらに会社を変革しているというお話で感動しました。共通していることは経営指針の実践で経営理念が社内のモノサシとなっている点で、日頃の取り組みがカギになってくることを学びました。

また、被災地では人口減少や就労人口の問題が、他地域より先に進行していることを知り、今後そこから学ぶ意義も感じてきました。

企業変革支援プログラムSTEP1 & STEP2で、社員とともにめざす企業像へ変革を

企業変革支援プログラムとは、同友会が長年培ってきた企業づくりにかかわる見解に基づいて、経営指針づくりや社員教育など、さまざまな活動や会員の経営実践などの教訓をまとめたものです。セルフアセスメント(自己診断)という形式で、自社の経営課題を明らかにしていきます。

経営者だけでなく、社員さんもセルフチェックし、現状認識を共有しながら企業変革に取り組む企業も増えてきました。ぜひ、一度お試しください。購入を希望される方は、山形同友会事務局までお申し込みください。

企業変革支援プログラムSTEP1

自社の状態・立ち位置を把握する

プログラムの詳しい説明や同友会のめざす企業づくりとのかかわり、活用方法などを分かりやすく紹介しています。

①経営者の責任 ②経営理念を実践する過程 ③人を生かす経営の 実践 ④市場・顧客及び自社の理解と対応状況 ⑤付加価値を高める といった五つのカテゴリーに分かれた22の設問に答えることで、自社の経営の成熟度をチェックし、自社の状態、立ち位置、現在の問題点を明確にします。



価格 **1,000円**

STEP1の回答データをe.doyuに登録しましょう

自社の回答データをstep1に付いている認証コードを用いてe.doyuに登録することで、自社の立ち位置を登録企業の中で客観的に確認できるようになり、経営課題を浮き彫りにすることができます。

業種別、従業員規模別、地域別、経営指針期別などさまざまな項目で、集積されたデータや会員の実践事例を参照できます。

企業変革支援プログラムSTEP2

変革に向けて実践を意識する

「ステップ1」による自己診断で企業経営における自社の立ち位置を理解し、自社の問題点を明確にした後、「ステップ2」に取り組むことで自社がめざすビジョンの構築やそこへ至る戦略の立案がスムーズに行えるようになります。

また、「ステップ2」は、「企業プロフィール」「自己分析シート優先順チェックシート」「自己分析シート」「今後の取り組み課題まとめシート」の四つの要素で構成されており、経営者が自分で気づきを得られるように配慮されているので、社内の仕組みづくりや社員教育を具体的に考えることもできます。



価格 **3,000円**

第12回理事会報告

◆日時:2013年3月14日(水)15:00~17:50 ◆会場:同友会事務局 ◆議長:越前屋理事
◆出席:青柳、浅野、伊藤(尚)、越前屋、川合、齋藤、中村、佐藤(一)、松田、後藤、若木、及川、玉津、島貴、小寺(オブザーバー)、事務局:伊藤、矢作(17名)

越前屋理事が議長をつとめ、川合代表理事の開会挨拶で始まりました。

■報告事項

1) 中同協関連

- ①第43回全研(福岡2/14~2/15) 2名参加(報告:伊藤事務局長)
- ②第1回復興シンポジウム in 福島(3/6)の報告 中村理事

2) 支部報告

置賜支部、寒河江支部、さくらんぼ支部より、例会等の活動報告があった。

3) 各委員会報告

- ①経営指針委員会について、2月から始まった「第18期経営指針をつくる会」について、中村理事が報告。
- ②経営指針実践のための特別例会(3/11 宮城 山形:8名参加)について、中村理事が報告。「企業変革支援プログラムの活用の実践事例に学び、労使見解の深読みの重要性和実践から成果につなげていくことが課題」と話した。

4)2013年新春交流会について、今回の特長と課題について齋藤理事が報告しました。

5)2013年2月月次決算報告、会費未収状況について伊藤事務局長が報告。

■承認事項(入・退会承認) 5名入会 4名退会
3/14日会員数 409名

■討議事項

議題1:第29回定時総会について

浅野実行委員長より、各支部の参加状況と進捗状況について報告があり、目標達成に向けての協力依頼があった。タイムスケジュールの確認、担当者を決定。

グループ長研修について、日程と申し合わせ事項を確認した。

●日時:4月16日(火)18:30~21:00

●会場:山形ビッグウイング 4F 研修室

●講師:中同協 松井専務幹事

議題2:2013年総会議案書(案)の件

1)2012年度活動のまとめについて、伊藤事務局長が提案し承認された。

2)2013年度活動方針(案)について、松田代表理事が提案。各委員

会の委員長、部会の活動について事務局より補足説明があった。組織方針(案)について、中村理事より提案があり承認された。

3)2013年事業計画(案)を確認した。

議題3:新年度役員体制(案)について

1)役員選考委員会について、選考委員長に任命された島貴理事より、前回理事会以降に常任理事会より1名の理事候補と2名の辞退があったと報告があり、その選考結果を報告し、役員(案)として承認された。

2)委員会・部会の委員長名簿を確認した。

議題4:事務局員採用について

川合代表理事より、事務局員への応募者があり、常任理事会で面接することが決定。

議題5:2013年予算(案)について (次回理事会議案)

議題6:規約改正(案)について

組織図変更により、規約第14条を改正(案)が決定。

議題7:会員増強の取り組みについて

松田代表理事より提案があり、各支部目標達成の取り組みと理事会として、430名達成し、定時総会を迎えることを決定。

議題8:中同協との業務委託契約書締結の件

中同協がプライバシーマーク取得の申請の準備にあたり、各同友会と中同協との間で、個人情報の取り扱いについての「業務委託契約書」の締結が必要となってきました。業務内容を確認し、業務締結することを決定。

■その他

1)山形映画センターより、映画「ひまわり」上映の協力依頼があり、会員にe.doyuでお知らせすることに決まった。*中小企業家しんぶん1/25号で紹介

2)山形県信用金庫協会さんより、4月12日(金)に、齋藤委員長に「山形県中小企業振興条例」に関する講演依頼がありました。

3)北海道同友会相談役 大久保尚孝氏のお別れ会(3/22)の件

4)次回理事会日程

●日時:4月12日(金)午後4時~午後6時

●会場:同友会事務局

■閉会挨拶 松田代表理事

新会員紹介

◎蜂谷 修一氏

(有)桂林 常務
業種 飲食業
山形支部

◎島田 慶資氏

ハンスバリュー 代表
業種 ホームページ制作及び
コンサルティング
山形支部

◎菅野 年郎氏

(株)ミラシエ 代表取締役
業種 各種印刷物制作、ウェブ制作、
CM制作、パッケージデザイン、ロゴデザイン、
キャラクターデザイン、イベント企画
山形支部

◎伊藤 茂仁氏

いとう不動産(株) 代表取締役
業種 不動産業
山形支部

◎森 美次氏

大盛設備(株) 取締役
業種 建築設備、メンテナンス
寒河江支部

支部・会員名・企業名・役職変更

かとう事務所(山形支部) 代表 加藤滋氏
⇒ (有)かとう事務所 代表取締役へ変更

From Editor

★まだ雪の残る3月、故北海道同友会相談役 大久保尚孝氏のお別れの会、偲ぶ会が札幌で行われました。深い関わりのある方からのお別れのことばから、北海道同友会創立時から事務局長として活躍され、全国各地の同友会に大きな功績を残され、影響を受けた方が多くいたとしみじみ感じました。★山形同友会には専務理事として、1998年2月3支部合同例会、2000年4月第17回定時総会の記念講演では代表理事として、同友会理念と自覚と誇りに満ちた人間集団づくりについてお話されました。経営指針成文化運動が始まり、社員教育の課題が切実となり、社員教育委員会発足した年に北海道同友会を訪問し、大変お世話になりました。★その時、「会社にとって都合のいい社員を育

てるのではなく、社会人としてどこでも通用する人を育てることを大きな課題としていること」と教えていただき、現在の山形同友会の社員共育活動へと発展してきました。★個人的にも大久保論文をはじめ多く著書にも学び、「緑の風が漂うオアシスに」「365日事務局員」とハードルは高く足元にも及びませんが目標にできました。言い回しが難しくすぐには理解できないこともあり、ずっと課題だった「科学的な愛」がこのたびその本質を知る機会を得たのですが、大久保さんは爽やかな風となって旅立たれました。激動の毎日、どんな荒波に乗ったらいいのかもわからない時代ですが、大地にしっかり足をつけ、深い生き方をしたいと静かに胸に刻みました。(由)

5月支部 総会のご案内

5月は各支部で総会が開かれます。
日時・会場・記念講演の講師が決まりました
のでお知らせします。

第9回庄内支部総会

2013.5.17 (金) 受付PM5:00～
第1部 支部総会 PM5:30～6:00
第2部 記念講演 PM6:10～7:20
第3部 懇親会 PM7:30～9:00

場所：東京第一ホテル鶴岡
鶴岡市錦町2-10 ☎0235-24-7611

記念講演講師：東北芸術工科大学
建築・環境デザイン学科
准教授 三浦秀一 氏

懇親会費：5,000円

第17回置賜支部総会

2013.5.16 (木) 受付PM5:00～
第1部 支部総会 PM5:30～6:00
第2部 記念講演 PM6:05～7:30
第3部 懇親会 PM7:35～9:00

場所：ホテルサンルート米沢
米沢市門東町3-3-1 ☎0238-21-3211

記念講演講師：(有)下仁田納豆
代表取締役 南都隆道氏

懇親会費：4,500円

第27回寒河江支部総会

2013.5.18 (土) 受付PM3:00～
第1部 支部総会 PM3:00～3:30
第2部 記念講演 PM4:00～5:30
第3部 懇親会 PM6:00～8:00

場所：ホテルサンチェリー
寒河江市本町1-2-23 ☎0237-83-5000

記念講演 「庄内に魅せられて」

講師：ホテルリッチ&ガーデン
庄内大好きプロデュース室長 中原浩子氏

懇親会費：5,000円

第19回さくらんぼ支部総会

2013.5.22 (水) 受付PM5:00～
第1部 支部総会 PM5:30～6:00
第2部 記念講演 PM6:00～7:15
会場を移動
第3部 懇親会 PM7:30～9:00

場所：さくらんぼタントクルセンター
東根市中央1-5-1 ☎0237-43-1155

記念講演 「勝機を狙え」

～どうする金融円滑化終了後対策、どうなる消費税事前対策～

講師：(有)奥山経営センター
代表取締役 奥山亨氏

懇親会費：後日ご連絡致します。

第27回山形支部総会

2013.5.23 (木) 受付PM2:30～
第1部 支部総会 PM3:00～3:40
第2部 記念講演 PM3:50～5:00
グループ討論 PM5:10～6:50
第3部 懇親会 PM7:00～8:30

場所：山形国際ホテル
山形市香澄町3-4-5 ☎023-633-1313

記念講演講師：渋谷レックス(株)

代表取締役 渋谷順子氏
(福島同友会 福島地区副会長)

懇親会費：後日ご連絡致します。

同友やまがた4月号(2013年4月1日発行/通巻241号)

 “知り合い、学び合い、援け合い”
山形県中小企業家同友会

〒990-2461 山形市南館三丁目26-26 スタジオ・アヴェン 102号
TEL(023)645-5500 FAX(023)645-5583
URL:<http://yamagata.doyu.jp/> E-mail:info@yamagata-doyu.jp